

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3671600124
法人名	社会福祉法人 よつ葉会
事業所名	グループホーム はな
所在地	徳島県阿波市市場町香美字秋葉本80番地1 (電話)0883-36-7771

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 24日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	9人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,250 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	180 円	昼食 260 円
	夕食	260 円	おやつ 80 円
	または1日当たり 780 円		

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・小笠原医院	・阿波病院
---------	--------	-------

徳島県 グループホームはな 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは3階建ての1階に位置し、同じ階にデイサービスもある。2～3階にケアハウスと防災型地域交流スペースもある。同一建物内の併設事業所の協力体制が整っており、母体の医療法人との連携も手厚く、対応が手早いなど安心した生活の場になっている。職員はほとんど異動がなく、看護、介護、調理など有資格者がプロ意識を持ち、それぞれの立場でやさしく温かい心で利用者の暮らしを支えている。地域密着型になってからデイサービスとショートステイの指定を取り、認知症の方々が住み慣れた地域で継続した暮らしができるよう支援している。また近くにスーパーや商店などがあり利便性も高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者の権利・義務については、契約書にそれぞれ明記され改善されている。また介護計画も利用者・家族の希望や思いを聞いて作成し見直しも行っている。市町村との連携や地域交流についても、2ヶ月毎の運営推進会議の開催により、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者と全職員で何度も話し合い、議論して仕上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。利用者、家族、地域住民代表、他事業管理者、職員等で構成され、外部評価結果報告、改善報告、自己評価項目、行事報告、地域住民との交流の機会づくり、認知症ケアの相談の場づくり、地震・災害時の避難についての地域交流スペースの活用について討議されている。地域の方々と話し合いを重ねていることでホームへの理解が深まり、連携の輪が少しずつ広がってきている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に意見箱を置いている。また来所時に直接意見や苦情、不安などを聞くようにしている。苦情等については職員で協議し対応策を打ち出し解決するようにしている。また、記録簿に経過記録を残している。家族会も開催し、意見を述べてもらう機会を作り運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の理美容の利用、食材の買い物や日用品の買い物などを通して利用者と地域住民の関係作りを行っている。駐在所、消防署、タクシー会社、学校などと交流を持ち、地域の中で安心して生活できるような関係を築いている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、地域密着型になったため全職員で理念の見直しを行い、「和やかに」「寄り添い」の2つの理念をつくられている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者や職員の集まるリビングの壁面に理念を貼り、常に確認できるようにして実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として近隣の保育所、小学校、中学校との交流や地域の文化交流に参加して地域に溶け込んでいる。法人の行事には地域の人達に参加してもらうなど交流が図れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、前回の評価の改善点について話し合い改善に取り組んでいる。また、今回の自己評価についても全職員で取り組み作成している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、利用者、家族、地域住民代表、他事業管理者等で構成されている。会議は自己評価、外部評価、行事報告、地域住民との交流の機会づくり等である。地域の方々と話し合いを重ねていることでホームへの理解が深まり、連携の輪が少しずつ広がっている。議題に添って話し合いをし、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型になり、入退居など利用者の相談や対応について話合う機会を多く持ち、連携を図りながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、生活日誌や金銭出納帳をみてもらい、現況や暮らしぶりを報告している。面会の少ない人には電話や手紙で連絡し、健康状態や金銭管理の現況を報告している。ホームだよりも年4回発行し家族に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いていつでも記入できるようにしている。また職員に直接話しやすいように来所時には、職員側から言葉かけするようにしている。家族会も開かれているので発言してもらい、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動は行われていないが、退職職員の補充時は、他の職員がカバーしあいながら利用者が不安にならないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修会を、計画的に行っており、パート職員も含めて全職員が参加するようにしている。また、県内研修は交代で段階に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に所属しており、研修会に参加するなどしているが、同業者との交流は十分にはできていない。	○	今後、同業者との交流に取り組みられ、サービスの質の向上に活かされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に自宅訪問して顔なじみの関係を作るようにしている。ショートステイやデイサービスの利用をしてもらい、関係性を築いてから入居される人が多い。安心したサービス利用につながっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のペースに合わせて見守るケアを実践しながら、昔の風習やことわざなどを教えてもらい学ぶ姿勢を持って接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の人生で培われた技術などを発揮できるように本人、家族に聞き、ケアに活かしている。家に帰りたいと話す人には2～3時間家で過ごしてもらおうなどしている。意思表示が十分できない人は表情等で汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成については毎日関わっている職員間で意見を出し合っている。また、家族の方とも話し合い、本人のより良い暮らしに繋げる介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直すとともに、本人の状態の変化に応じて見直しがされている。家族との相談は来所してもらったり、電話で話し合うなどしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイやデイサービスの指定を受けており、地域の方を受け入れている。また、入居されている方とデイサービス利用者などが将棋などを楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族等の希望するかかりつけ医への受診支援がされている。また、併設施設より週2回(火・金)の診察があり、緊急時はいつでも対応してもらえるシステムになっているので、適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や提携医療機関の医師、家族、看護師、職員等を交えて話し合いを繰り返すようにしている。本人の病態変化に対応しながらその都度話し合いを重ねて、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを侵害しないように一人ひとりに合った対応をするなど配慮している。また記録の取り扱いにも個人情報が漏れないように職員間で徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを最優先して、日課に合わせたり、職員の都合による支援はしないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は職員が作り、昼食は利用者に準備段階からできることを手伝ってもらっている。夕食はケアハウスで作ってくれるので、利用者には配膳準備などを手伝ってもらっている。利用者と職員は一緒に食卓を囲み食事を楽しむことのできる支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望を聞いた上で、毎日入浴できるようにしている。夕方に希望する人もいる。また、嫌がる人には、週3回入れるよう声かけなどを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のしたいことを引き出し、裁縫する人、将棋をする人、新聞を読む人、洗濯物をたたむ人などそれぞれの持っている力を発揮してもらえるようにして役割や楽しみごとが持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物のすぐ前に広場があり、日常的に安心して外気浴ができる。またドライブ等の外出時に自宅近くを通ると立ち寄って柿を取ってくるなど希望に添えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない支援に取り組まれており、利用者が外出したい様子があれば、その気持ちを受け止め共に行動するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を利用者と共に実施し、避難方法を身につけるようにしている。そのうち1回は近隣の人と自衛防災組織を作り、参加してもらい、協力体制を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士がカロリーや栄養バランスを考えて献立や調理の一部を支援してくれているので、職員は食べる量や嚥下力など一人ひとりの状態に応じて支援している。水分は摂取したら、生活日誌に記録を書き込むようにして、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には鉢植えの花や行事のスナップ写真が飾られている。また、クリスマスの飾りをして、季節感を出している。食堂や居間には畳やホームコタツを置いて、家庭的な雰囲気、居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい部屋になるように、本人の好みのぬいぐるみや使い慣れた椅子、鉢植えの花や写真、裁縫箱などを持ち込み、それぞれその人らしい居心地よい居室作りがされている。		